

四国まるごとジオパーク その魅力とあり方

横山俊治 (高知大学)

応用地質学会中四国支部
支部設立15周年記念シンポジウム
「中国四国地方の自然遺産・文化遺産と応用地質学」

お話の流れ

- ◆ 四国のジオパークへの取り組み
- ◆ ジオパークの存在意義
- ◆ 応用地質学徒とジオパークの接点
- ◆ ジオパークは料理と同じ
- ◆ 四国まるごとジオパークのコース料理

四国のジオパークへの取り組みの歴史

- ◆ ~ 2005 佐川・仁淀川地域で 地元？
- ◆ ? ~ 現在 室戸地域で 地元？
- ◆ 2007 四国運輸局発注の委員会(国費)
「四国はひとつ」で合意
「四国まるごとジオパーク」に
- ◆ 2008 7 室戸地域
日本ジオパーク委員会にエントリー
- ◆ 2008 9 ? 高知県発注の事業
「ジオパーク設立推進事業費(国費)」



問題

- ◆ 四国全域をひとつのジオパークに仕立てる統一した地質学的視点が不明.
- ◆ 四国広域協議会・地域協議会の立ち上げ前に室戸地域がエントリーした.
- ◆ 「四国はひとつ」との関係が曖昧
- ◆ ジオパークの基盤整備(地質遺産の抽出・現状・見せ方など)の検討が不十分
- ◆ 県内の低い認知度・地元不在

ジオパークの存在意義

- ◆ すべての人々に身につけてほしい地形・地質の知識や見方を楽しみながら学ぶ
- ◆ ジオパーク: その機会を提供する場所
- ◆ ジオツアー: 学びの方法

真っ先にジオパークを利用してもらいたい人 それは地元の人

- ◆ 自ら生まれ育った身近な大地の有り様を知り、
- ◆ 郷土の大地の美しさ・守るべきものを再発見し、
- ◆ 大地との安全な付き合い方を学ぶ

四国まるごとジオパークの存在意義

四国の住む人自らが、

- ◆ 四国のジオの魅力を発見し、
 - ◆ それを守り、
 - ◆ それを楽しむ。
- ◆ 地質観光の地産地消を通して、四県の人々の交流を活発になれば、存在意義は大きい。

応用地質学徒とジオパークの接点

- ◆ 応用地質学徒がまず、ジオツアーを楽しむ
- ◆ 知識・経験をジオアテンダント(地形・地質で
もてなす人)として活かす



ジオパークは料理と同じ



ジオパークの料理

- ◆ 素材: 地形・地質の魅力
- ◆ 調理: 見せ方(どこを, どの方向から, どのように)
- ◆ 整備・管理: 草刈り, 伐採, 掃除
- ◆ 案内: 看板(木製)・ジオアテンダントの養成
- ◆ ジオパークの顔: コース料理を考える
統一的な地質学的視点はなにか
- ◆ 味のわかる人でないと: 地学教育の再構築

四国まるごとジオパークの コース料理を考える

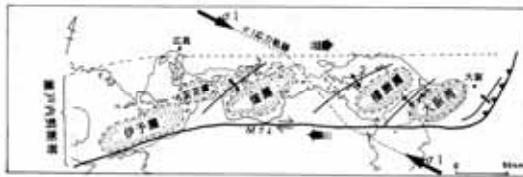
- ◆ メニュー1
履歴の異なる付加体群を素材に
- ◆ メニュー2
フィリピン海プレートの斜め沈み込みによる水平変動領域と垂直変動領域の対峙を素材に



中央構造線を境に地形のコントラスト

- ◆ 北側: 水平変動領域
- ◆ 南側: 垂直変動領域
- ◆ 瀬戸内海の島々の分布: 中央構造線の右横ずれ断層運動による大地のしわを反映
- ◆ 急峻な四国山地: 年2-4mmの上昇
- ◆ 古い地形面の消滅
- ◆ 山地を切り込む清流
- ◆ 古い地形面
瀬戸内面 が残存

右横ずれ変形による大地のしわ

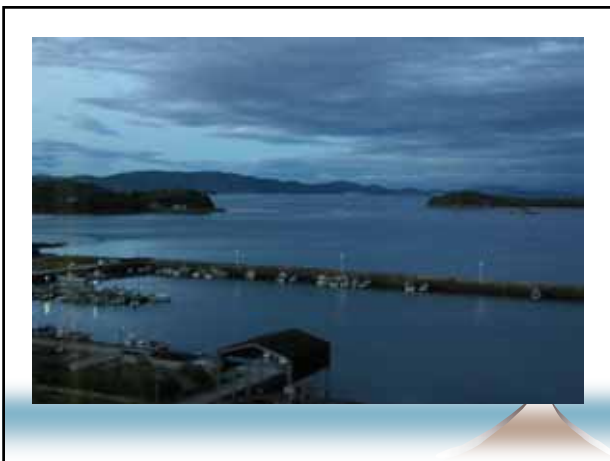


佃(1990)を改変



瀬戸内海: 水平変動領域の風景

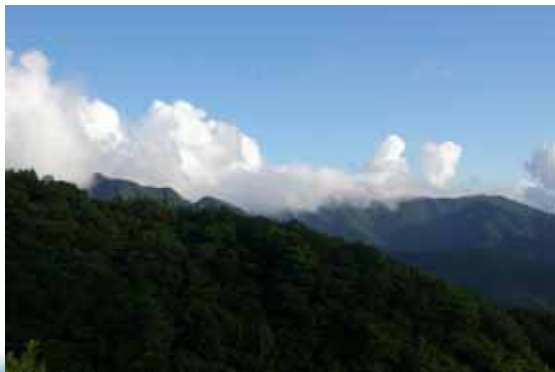




変動領域を二分する中央構造線



四国山地: 垂直変動領域の風景





橋を吊る



橋を沈める



地質遺産を文化と結びつける

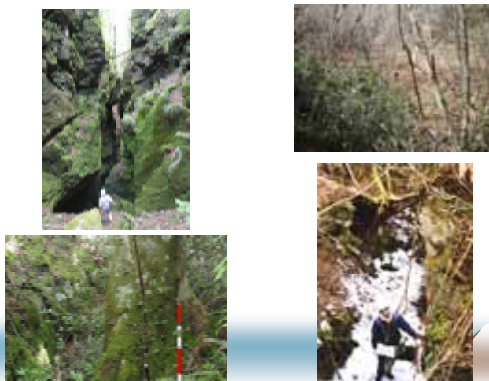
- ◆ 地すべり・天界の村と平家落人伝説



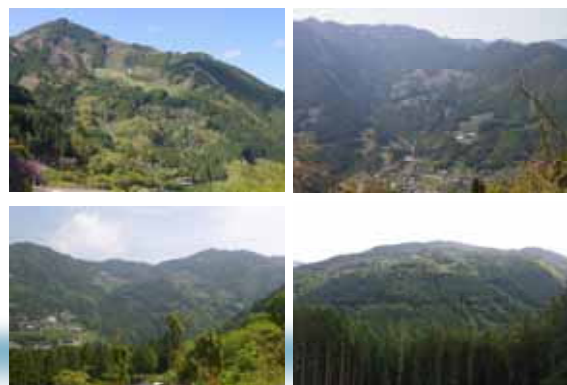
南海地震の記録

- ◆ 四国の山は尾根から裂ける
- ◆ 海岸は地震の度に隆起する

四国の山は地震動で尾根から裂ける



四国山地の地すべり地形



地震隆起地形 in室戸



おわりに

- ◆ ジオパーク、ジオツアーは息の長い実践で育てる
- ◆ 応用地質学会のこれからの取り組み
- ◆ 1. 地形・地質を観光資源に育てる研究
- ◆ 2. ジオパーク・ジオツアー・ジオアテンダントを意識した活動を活発に